

○単元の目標

知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。
思考力・判断力・表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力・人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

評価規準

【知識・技能】
 ①捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを取るができるようになる。
 ②身体を軸を安定させてバットを振りぬくことができるようになる。
 ③球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。
 ④味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くことができるようになる。

【思考・判断・表現】
 ①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。
 ②体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。

【主体的に学習に取り組む態度】
 ①球技の学習に自主的に取り組むものとしている。
 ②互いに練習相手になったり仲間に助け合ったりして、互いに助け合い教え合おうとしている。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	ボール操作やバット操作について理解するとともに、自己やチームの課題を見付けることができる。	ボール操作や安定したバット操作を身に付け、ゲームを楽しむことができる。				相手チームの得点を防ぐために、チームで連携した守備を行うことができる。		これまで取り組んできた練習の成果をゲームで発揮し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができる。		

導入	出席確認・号令走・準備運動・学習内容の確認									
----	-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

展開	競技の特性や行い方、基本的なボールやバット操作について理解することができるよう、模範を見せながら説明する。	チーム内で2人又は3人組を作り、コミュニケーションをとりながらキャッチボールを行う。(柔らかいボール・ソフトボール・新聞紙ボールから自分で選択してキャッチボールを行う。) 共：自分の技能に合った距離で、自分の課題に応じてゴロやフライ等も含めてキャッチボールを行う。お互いに良いプレイを認め合うような声掛けを積極的に行う。	ボール操作に関する動きのポイントについて説明を聞き、練習を行う。 共：生徒が自分の技能に合わせて練習に取り組むことができるように、2種類の練習方法を提示する。 ①手で投げられたボールを捕球(守備範囲：狭い、ボールのスピード：ゆっくり) ②バットで打たれたボールを捕球(ノック形式、守備範囲：広い、ボールのスピード：速い)	バット操作に関する動きのポイントについて説明を聞き、練習を行う。 共：生徒が自分の技能に合わせて練習に取り組むことができるように、3種類の練習方法を提示する。 ①ティーバッティング ②トスバッティング ③フリーバッティング	2塁でダブルプレイの動きについてポイントを聞き、練習を行う。 共：ホワイトボードで動き方のポイントを確認し、練習を行う。 【ポイント】 ・打球に応じて、セカンド又はショートが2塁にベースカバーに入る。 ・2塁へのベースカバーと1塁へ送球は一連の動作で行うことができるようにタイミングを取る	リーグ戦 ゲームを4チームによる総当たり方式で行う。 第8時：A対B、C対D 第9時：A対C、B対D 第10時：A対D、B対C
	ボールやバット操作等の課題を見つけるために、試しのゲームを行う。 【ルール】 ゲームは3イニングゲームとする。 ※ただし、1・2回は各イニングで3点入った時点で攻守交替とする。	ゲームを行う。 【ルール】 ゲームは3イニングゲームとする。 ※ただし、1・2回は各イニングで3点入った時点で攻守交替とする。	ゲームを行う。 共：打つ場面では、自己の技能に応じて上記の①～③の打ち方を選択することができるようにする。	ゲームを行う。 共：技能の習得場面での生徒の様子から、6、7時のゲームにおいて、生徒がより全力でゲームを楽しめる工夫として、適宜①～③を取り入れる。	共：ルールについては、これまで取り組んだルールの中から対戦チーム同士で話し合い、選択できることとする。	

終末	今後の学習の見通しをもつことができるように、バットやボール操作に関する自己やチームの課題を話し合う。	本時の学習を振り返り、自己やチームの課題を話し合い、次時の学習の見通しを持つ。 共：話し合いの中で、お互いに良かった点を積極的に話し合い、一人一人の違いに応じた技能の高まりを実感できるようにする。
----	--	---

評価場面	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知識・技能			①		②	③	④	①	②	
思考・判断・表現		①			②				①	②
主体的に学習に取り組む態度	①			②						②

実践事例

生徒の課題に応じた、自己の動きを高めるための場や教具の工夫

高等学校第1学年 E 球技 ウ ベースボール型「ソフトボール」

福岡県立城南高等学校

1 単元の目標

- 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。【知識及び技能】
- 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 生徒の課題に応じた、自己の動きを高めることができる場の工夫

本単元では、ボール操作や安定したバット操作において、自己の課題を解決するため自己の技能に応じた練習ができる場を設定した。

【捕球する動きを高める場】

①手で転がすボールを捕球

(距離：近い、ボールスピード：ゆっくり、ゴロ)

マーカーで囲まれた場所に2人一組で向かい合い、一方がボールを転がし、もう一方が捕球することを交互に繰り返す。

(正面、左右にゴロを転がす。)ゴロを転がす範囲は狭く、ボールスピードはゆっくりとし、捕球が苦手な生徒も意欲的に取り組むことができる場とした。



②-1 バットで打ったボールを捕球

(距離：近い、ボールスピード：速い、ゴロ)

ノッカーが打ったゴロのボールを捕球し、1塁へ送球するという内野の守備を想定した練習の場を設定した。(上記①の練習よりボールスピードは速く、距離も遠い。)



②-2 バットで打たれたボールを捕球

(距離：遠い、ボールスピード：速い、フライ)

ノッカーが打ったフライのボールを捕球し、返球するという外野の守備を想定した練習の場を設定した。(上記②の練習とボールスピードは同じであるが、距離が遠い。)



【バットを操作する動きを高める場】

①ティーバッティング

止まったボールを打つ動きを高める場とした。台の上に置いたボールは、新聞紙で作成したボールとティーボール用ボールを選択できるようにした。



② トスバッティング

動くボールに対してバットを操作する動きを高めるために、斜め前方（近い距離）からトスしたボールをバットで打つ場を設定した。上記①と同様に、新聞紙で作成したボールとティーボール用ボールを選択できるようにした。



③ フリーバッティング

実際のゲームを意識しながらバットを操作する動きを高めるために、ピッチャーが投げたボールを打つ場を設定した。



(2) 生徒の課題に応じた、自分の動きを高めることができる教具の工夫

① ティースタンド

生徒全員が意欲的にバット操作の動きを高めることができるように、①静止した状態のボールにバットを当てる、②ボールを打ち抜くことができる教具として、ティースタンドをコーンと牛乳パックで作成した。

② 新聞紙ボール

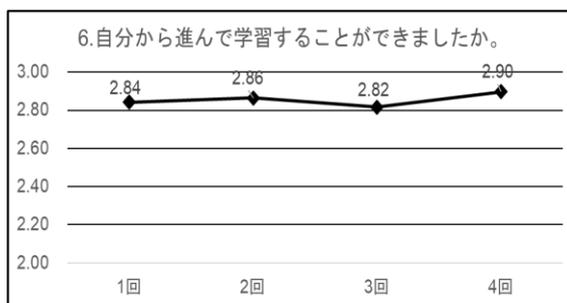
生徒全員が安全にバット操作の動きを高めることができるように、また、バットに上手くボールを当てる感覚をつかむことができるように、新聞紙を丸めてガムテープで補強した新聞紙ボールを準備した。新聞紙ボールは柔らかいため、ボールを打った際にバットの芯を外れて打っても手がしびれることがなく、バット操作が苦手な生徒でも積極的に練習に取り組むことができた。また、ボールをたくさん準備することが容易であるため、生徒がボールを打つ回数も確保できた。



3 成果と課題

(1) 成果

- 各時間の授業後に実施した「形成的授業評価」において、「自分から進んで学習することができましたか」という質問に対して、どの時間も高い値で推移した。また、本単元終了時、生徒に単元を振り返って感想を書かせたところ、下記のような記述が見られた。このことから、自己の課題を解決するために、自己の技能に応じた練習する場を設定したことで、生徒は積極的に授業に取り組むことができたと考える。



- ・小・中学校を通して、ソフトボールの授業でボールを打つことがほとんどできなかったが、ボールが止まっている状態から打つ練習をはじめたことで、ある程度打てるようになったことがうれしかった。
- ・自分のレベルにあった練習ができたことがよかった。また、友達とも協力でき楽しかった。機会があったら、ぜひ、またやってみたい。

(2) 課題

- 本実践は、生徒全員の「捕球する動き」、「バットを操作する動き」を高めることに重点を置いたことにより、ベースボール型ゲームにおける「連携した守備の動き」や「攻撃における作戦等の工夫」などについて、効果的な仕掛けが不十分であったと考える。今後は、本実践を通して高まった動きをもとに、生徒全員が、「もっと活躍したい」、「もっとゲームを楽しみたい。」と思うための工夫を重ねていきたい。